

これからのJANES ■ 重田眞義

日本ナイル・エチオピア学会(Japan Association for Nilo-Ethiopian Studies:JANES)は2012年で創立20年を数えました。2012年4月に開催された記念公開シンポジウムと学術大会を無事に終え、学会はひとつの節目を迎えたとも言えるのではないのでしょうか。この機会に、これまでを振り返りながら、日本ナイル・エチオピア学会のこれからをいくつかの点について前向きに展望してみたいと思います。

まず学会にとっていちばん大切なのはその構成員である会員であることはいうまでもありません。学会の設立当初は、大学や研究機関に籍を置く人たちだけでなく、産官民の各分野でお仕事をされている方々にも広く参加を呼びかけて、会員になっていただいていた。残念ながら現在は、120名余りの会員の大半が大学の研究者や学生で構成されています。ここは初心にかえり、アフリカのなかでも特色ある地域を対象にする学会として、政治、外交、貿易、商業、開発、国際協力などの分野で活躍されている方々にも是非参加いただきたいと思います。それには、学会を、ナイル・エチオピア地域に関する情報の交換がおこないやすい開かれた場とする努力と、現会員のご理解が必要と思われます。

学会にとって、会員の次に重要なのは学会誌といえるでしょう。JANESの存在意義とも言える*Nilo-Ethiopian Studies*誌は、研究成果の発表の媒体として学会創立以来、18号を数えています。そして、特にこの3年間、曾我徹編集長はじめ編集委員の方々の並々ならぬご尽力によって学会史上はじめて完全な定期刊行が実現しています。英文学術誌としての評価がますます高くなるものと期待しています。すべての会員の方々に、そして着々と研究成果を積み上げておられる若手の方には特に、これまで以上にふるって投稿いただくようお願いいたします。

学会関連情報の発信と共有に関しては、現在、増田研ニュースレター編集長のもとで、学会ウェブサイトを活用した新しい仕組みが準備されています。それにもなつてこのニュースレターは本号をもって紙媒体での発行を終えることとなります。これまでのように年に1回の発行ではなく随時更新できるようにし、更新をメーリングリストなどで周知することによって、会員相互の交流も大いに促進されると期待します。TwitterやFacebookなどのSNSを活用した交流もすすめていければと思います。そのなかで、会員の活動や学会誌情報を海外に積極的に発信することも容易になると期待します。

しかしインターネットを介したやりとりとは別に、1年に一度とはいえ、直接、顔をあわ

せて交流する学術大会の機会は、学会の最も中心的な行事であることに変わりありません。なかでも、毎年お世話になる開催地の選択は研究成果の社会への還元を考えるうえでも重要な要素です。2013年度の大会は、災害からの復興を公開シンポジウムの共通テーマとして、東日本大震災の災禍を乗り越えてこられた宮城県石巻の地で開催されました。これまでも、教育研究機関とは異なる場をおかりして特色ある大会を実施してきましたが、今後とも、機会があれば是非、日本の地域とのつながりを大切にする大会が実施できればと思います。

JANESのもうひとつの特色は、小規模な学会ながら、若手研究者を奨励する高島賞をもうけているところにあります。この賞は、JANES創立に際して故高島浩一氏(共英製鋼会長)からいただいたご厚意をもとに高島基金を設けてはじめられました。受賞の対象は若手研究者だけでなく、ナイル・エチオピア地域において実践活動をされている会員も対象にしてきましたが、この分野での受賞がこれまでほとんどないことは残念です。今後は、ナイル・エチオピア地域への様々な協力や支援活動、BOPビジネスなど実践の分野で活躍される会員の活動が顕彰される機会が増えることを願います。

改めて申し上げるまでもなく、学会はひとつのコミュニティとして会員相互の多様な情報交流と発信のプラットフォーム機能を果たすことが肝要と思われれます。これまで、JANESの活動内容について、学会誌、ニュースレターの発行や学術大会の開催などの他に、新たに学会として何ができるのかを議論したことはなかったように思います。今後は、特定の地域を対象とする学会のひとつとして、その中から自生的に新たなコミュニティが生まれ、個別の活動として、社会貢献、国際協力、共同研究、研究成果の社会への還元などとして結実してくることが望ましいのではないかと考えます。JANESにはそのような創造的発展を生み出す母体としての役割を今後とも担っていくことが求められていると私は考えています。会員各位のご意見や提言をいただきJANESのこれからを議論する機会を今後とも設けていきたいと願っております。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

(しげた・まさよし/日本ナイル・エチオピア学会会長)